

依頼論文

日本補綴歯科学会第123回学術大会／臨床リレーセッション2  
「サルコペニアの予防と改善に寄与する補綴歯科を目指して  
—多職種連携による高齢者の口腔機能、栄養、運動機能の改善—」

## 本企画にあたって

徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野  
市川哲雄

超高齢化に伴い医療のあり方が見直され、延命一辺倒ではなく個別事例ごとに、本人の人生を少なくとも今より悪くしないことを目指して、QOLの保持・向上および生命維持を考えるようになってきている。まさしく、誰もが避けることのできない老化、死、つまり Quality of Death を見据えて医療、介護、福祉を考えなければいけない。この中で、口の機能の重要性とそれを保持することの人の人としての尊厳に皆が気づき始めている。また、サルコペニア、フレイルといった疾病、能力障害の前段階を評価し、予防、回復を目指すことが課題になっている。一方、歯科補綴学は、口腔の機能と形態を、主として生体材料を用いて回復、維持する診療領域であり、学問である。その専門家集団である日本補綴歯科学会は、この口腔機能の重要性を最も知る学会であり、サルコペニアやフレイルにも目を向けている。

本論文は、学術委員会の松山美和教授が担当された第123回日本補綴歯科学会学術大会シンポジウムの内容を、学会員だけが共有するのではなく、他領域の人にもこの内容を知って貰いたいということで、日本補綴歯科学会誌で企画したものである。シンポジストの4人の先生方に加えて、より幅広い領域からの意見を加えるという意味合いもあり、読書感として中島八十一先生、小西美智子先生にも執筆いただいた。これまで歯科、とくに補綴歯科領域では、外来診療が中心で歯科を超えた他領域の人たちと交わることは少なく、独自の学問体系、診療体系を構築してきた。従って、本論文は補綴歯科領域を専門とする以外の方、とくに「補綴歯科とはなんぞや」と思っている方々と、補綴歯科領域にしか関心がなかった方々に読んでいただければ幸いである。そして、口腔機能の重要性の情報発信、その情報が納得されるための学術的根拠の構築、推進のための多職種連携・協働ができる人材育成に少しでもお役に立てればと考える。